Ⅱ．グループインタビュー・ヒアリング

Ⅱ．グループインタビュー・ヒアリングの概要

①大手旅行代理店富山支店の若手社員（グループインタビュー）

「観光地としてとしての富山の現状と可能性、北陸新幹線開業後の観光商品作りなどについて」

・富山で宿泊客が多いのは立山黒部アルペンルート「雪の大谷ウォーク」開催時の 4、5 月と 9 月のおわら風の盆のみ。近隣県に良い温泉地がありすぎるためなのかゴールデンウィークも多くない。

・（名古屋出身者）名古屋に住んでいる時は、「観光」対象として「北陸」はない。観光先は長野や岐阜そして関西となる。

・都心部での富山の観光パンフレットは、たくさんの自然が掲載されている印象。観光地として全般的に若者向けではない。

・アルペンルートは人気であるが早朝からの出発になるため、他の観光が絡めず、結局、大町や安曇野での宿泊プランとなる。

・観光ルートの基本は、「観光」と「買い物」で、プラス食事や温泉などであるが、富山には買い物をするところ（したいところ）がない。

・例えば「北陸」という観光商品を考える場合、和倉温泉や加賀温泉で宿泊、東尋坊や兼六園、２１世紀美術館の観光、そして金沢市街地での「買い物」となる。

・富山にも、「瑞龍寺」や「アルペンルート」などの有名な観光地があるがそれだけでは観光商品になりにくい。

・特に社員旅行などの場合は年齢層が様々なので「買い物」をコースに組み入れられる場所があればよい。アウトレットなど富山にも買い物ができる施設が欲しい。

・観光の魅力は当然「食」もある。アルペンルートは人気があるが「食」がない。そこで富山の海産物等を提供できればきっと商品価値が上がるだろう。

・北陸新幹線開業後は、観光では富山に来られる人よりも富山から出ていく人が増えるだろう。

・現在、富山でコンベンション、学会等が開催される場合、富山ではなく金沢で宿泊する人が多い。北陸新幹線開業後は移動時間短縮によりさらに増えるだろう。

・北陸新幹線は富山の人が便利なダイヤになるのだろうか（東京中心ではないか）。また、果たして JR 富山駅には新幹線が全便停車するのか疑問である。

・富山空港を利用する外国人観光客が増えているが、空港には長野や岐阜からの送迎バスが多い。通過型となっていないか。

・長野新幹線開業後、現在、東京からの長野での宿泊者、また反対に長野からの東京での宿泊者数が開業前よりも減っている。北陸新幹線開業後、富山への出張客が増えるであろうが、果たして宿泊数はどうなるか分からない。

・九州新幹線（さくら）の車両がよい。例えば指定席が片側 2 列で快適。北陸新幹線はトンネルが多くなるが、車窓からの景色は楽しめるだろうか。また、携帯電話等の電波は大丈夫だろうか。新幹線が単なる移動手段ではなく、乗ること自体がエンタテイメントとなればよい。

・現在、NHK 大河ドラマの影響で滋賀が人気である。比叡山延暦寺の観光、そしてアウトレットもある。観光には「買い物」も欲しい。

・当然、京都は観光地であるが、市街地での買い物が楽しめるのも魅力である。また、街全体としてのおもてなしの雰囲気があり、街にプライドを持っている人が多い。

・北陸新幹線開通後は富山から軽井沢に行く頻度が上がるだろう。買い物（アウトレット等）と観光地

がまとまっているところ、そして食べ歩きができるところが魅力だろう。

・また、個人的に「沖縄」、「仙台」などが好きであるが、その魅力は、沖縄は人自体がのんびりしていて日常を忘れられるということ、「仙台」は食べ物が美味しく、街も栄えており買い物もできることである。富山も住んでみたら良いところだと思うので、もっと来てほしい。富山の良いことところ（富山らしさ）もある。

②生命保険会社富山支店長等の県外出身者（グループインタビュー）

「県外から赴任してみての富山に対する印象と北陸新幹線開業後のビジネスユース等の影響について」

・県外人にとって、昔から富山の印象は薄い。日本のどこに位置するかも分からない人が多い（金沢は有名なのだが…）。また、県外の人は北陸新幹線の金沢までの開業を殆ど知らないだろう。

・富山はとにかく治安がよい、勤勉、まじめ。県外出身者に対して、思っていたほど（ほとんど）排他的な感じは受けない。

・地方にしては意外と物価が高い（日常生活費全般）。特に外食の値段（ランチも）が高い。アパート賃料も安くない（物件が少ないからか）。

・富山の「サービス・もてなし」は、悪いというほどではないが、他と比べると劣る。富山県内の温泉旅館のサービスは決して悪くないが、加賀温泉などのサービスはさらにかゆいところにも気がきく感じ。また、同じ全国系列書店のサービス（本の渡し方ひとつとっても）も富山と都心部では違う。不快感はないが、よりよいサービスに慣れている県外観光客にとってはどうか（富山県民自体が高いサービスを求めていない感じ）。

・富山駅を降りた時の印象が良くない（顔がない）、消費をしようという気分にならない。

・２次交通がよくないため、富山に来られたお客様を自家用車で案内するしかない。交通の連携に不便さを感じる。また、中心市街地に魅力がない。

・富山といえば、アルペンルートや氷見、五箇山、八尾、黒部などの資源があり、有名で魅力がある。ただし、アルペンルートの運賃は高く感じる。県外からのお客様には飲食場所として回転寿しや魚津の海の駅「蜃気楼」（海鮮バーベキュー）などを紹介し、好評である。

・しかし、やはり観光では金沢には勝てないだろう。ビジネスで来られたお客様に富山を紹介する場合、定番の観光地（立山や氷見、五箇山等）を案内するが、何度も富山に来られている人に案内するところがない。例えば、富山は「工業県」であることに特化して、産業観光施設の充実等に取り組んではどうか。また、富山を日本のシリコンバレーとする取り組みはどうか。北陸新幹線開業により富山を訪れるビジネス客は増えるだろう。特に長野が近くなる印象。

・新幹線開通など交通網の理由による支店の統廃合はないと思う。

・富山空港から関西や九州方面の便がないため、西日本へのアクセスがよくない（遠く感じる）。北陸新幹線の大阪までの開業を望む。

・富山空港は駐車場が無料で市街地にも近く利便性が高い。しかし北陸新幹線開業後は東京出張での新幹線利用が増えるだろう。

・九州の特急電車は内外装ともにお洒落（豪華車両、革張りシート、椅子の背もたれの形がミッキーマウス、窓が広い等）。また、車内サービスもよい。例えば、車内販売のコーヒーが 200 円と安く、また、一度購入すると 100 円割引券がもらえる。午後 5 時以降は生ビールを販売。売り子も若くきれいで、乗っていて気分がよく、楽しい。

・東日本大震災により、東京の本社機能を一部移す会社がある。

・例えば佐世保、山形など、地元にあまり仕事（産業）がないところでは、多くの男性は都会で就職をする（Ｕターンが少ない）ため、地元に女性のみが残る（婿がいない）。また、東北では現在でも出稼ぎや中学卒業後に就職する割合も低くない。富山は良い方だ。

③富山市にあるエコツアー、体験型、着地型旅行の会社（ヒアリング）

「富山の着地型観光について」

・富山の魅力は、県自体の小ささもあり、街と自然との地理的距離が非常に近い点にある。富山駅や富山空港から、すぐに、海や山、里山、川といった大自然に行けることは魅力である。
・「金沢＝街の観光」と明確に対比できる「富山＝自然の観光」で売り出していけばよいと思う。ただ数時間のバスによる観光（ハコモノ観光）ではなく、地域で人と触れ合い、自然を学び、自然を感じる着地型観光（1 日以上の）の観光を広めたい。
・着地型観光は北海道や沖縄には非常に多い。富山には半日や１日のオプションツアーを企画運営するようなツアー会社が殆ど存在しない。
・富山のポテンシャルは非常に高いと考えており、白馬や上高地とは異なる「富山らしさ」が売りとなる。
・八尾をはじめとして「もてなしの心」に全く欠ける観光地や人物が散見されるが、人間性は、付き合うと「人としての温かみ」を感じることが多く、損をしている。
・立山黒部アルペンルートは富山県側に魅力が詰まっている。長野県は、基本的に乗り物観光であるが、富山県には室堂から弥陀ヶ原、立山山麓など、可能性を秘めた宿泊を含んだ着地型観光が出来る場所が豊富である。
・現在、新潟からの観光客が富山へ来ている。それは、富山という土地が安心・安全という点で若干ではあるが注目を浴びているからだろう（新潟は東北も関東へも行けない…富山へとなっている）。
・富山に電車を撮りに来ている人は多い。高山線に趣のある電車を走らせれば、ＪＲ九州の観光列車に近いイメージの展開が出来るのではないか。
・観光とは、「目的」ありきであるため、富山を目的とした観光を作り出したい。
・工業県であることから、観光以外のビジネスという視点で新幹線開業を切り取ることは非常に重要。新幹線は単なる手段。

◆参考（北陸新幹線沿線各商工会議所の取組み）

石川および富山の北陸新幹線駅が設置される地域の商工会議所においては、各種の委員会等を設置し、様々な地域活性化を目的とした取組みを行っている。地域資源を活用した観光客誘致のための対策や、広域連携による観光面強化などが進められている。

金沢商工会議所	・「新幹線対策特別委員会」を設置。地元の中小企業者が北陸新幹線開業により「プラス」の面をできるだけ享受し、「マイナス」の面を回避していくための取組みを行う。また、「対首都圏戦略」により首都圏への販路拡大や首都圏からの観光客の入込増加策など観光プランや商品開発の促進に力を入れているほか、高山市や高崎市との意見交換会を開催している。 ・「おもてなしの心」の向上に向けた「ようこそ金沢推進協議会」を設立。地域経済の活性化を図る上で交流人口の拡大が極めて重要であるとの認識の下、北陸新幹線の開業を見据え経済界の立場で、「もてなし力」の向上を図

	るべく同所が主体となって運営。増大する交流人口を産業振興や観光振興に活かすべく講師を招聘しての研修会等を実施している。 ・「新幹線開業対策小委員会」を設置し、北陸新幹線の開業対策として期待されるディスティネーションキャンペーン(JR と連携して実施する大型観光キャンペーン）の誘致について、様々な業界が協力して観光素材の掘り起こしや受け入れ態勢を整備する等、その実現に向けた活動を行っている。 ・3 市 3 町による「新幹線金沢駅周辺地域連絡会」への参加。北陸新幹線の金沢開業に向けて圏域全体の魅力向上を図るため、新幹線が停車する金沢駅と周辺にある金沢市、白山市、かほく市、野々市町、津幡町、内灘町の観光振興、交通アクセスの向上、農産物のブランド化及びもてなし力の向上などに向けて官民一体となって取り組んでいる。
高岡商工会議所	・「新高岡駅全列車停車等対策特別委員会」を発足し、高岡商工会議所をはじめとする飛越能の商工会議所、商工会が北陸新幹線新高岡駅への全列車停止について、JR 西日本に陳情を行ったほか、先進地視察やシンポジウムを開催している。 ・「産業観光ツーリズム推進事業」を発端として、県西部および東海北陸自動車道沿線地域の観光スポットと地場産業の見学・体験を融合させる取組みを実施。また、コロッケなど B 級グルメによる町おこしに取り組んでいる。
黒部商工会議所	・北陸新幹線開業後のまちづくりを考える「2014 委員会」を設置し、「ロハスなまちづくり」をメインテーマに、「水」「活力」「JR 黒部駅周辺」「新幹線新駅周辺」などの小テーマごとに委員会活動を行い、持続可能な、環境に配慮したまちづくりについての提案活動などを行っている。また、北陸新幹線の開業に向け、広域的な視野に立った「黒部の将来像」を描こうと、「１市民１アイデア」運動を行い、市民による活性化策、まちづくり提案を参考に「マチヂカラ（まちの活力・活性化）のアップ」に取組んでいる。 ・「交通体系を考える特別委員会」を設置し、新駅と富山地方鉄道とのアクセス向上などについて協議している。

（その他参考）宇奈月温泉地域の取組みについて

「でんき宇奈月プロジェクト／黒部・宇奈月温泉観光活性化協議会」 宇奈月温泉地域において先進的な低炭素社会型観光地の形成に向けて、小水力発電事業および電気自動車による公共交通事業を試行し、新しい電化型温泉地「エコリゾート」としてのコンセプトに基づいて観光客誘致を促進するとともに、地元業者による社会基盤構築事業の創出を検討するプロジェクトが行われている。 温泉街の小さな水路を利用しての小水力発電や温泉熱を利用した温度差発電によるクリーンエネルギーの供給と電気自動車バス等による公共交通システムを組み合わせ、環境にやさしい温泉リゾートとしての取組みが行われている。